

2023 概要版

REPORT

令和5事業年度に係る業務の実績に
関する報告書の概要について



お茶の水女子大学
Ochanomizu University



～未来につなぐ～

2025

Ochanomizu University

【目次】

I. はじめに

II. 全ての定量的な評価指標の達成状況について

III. 各分野の取組について

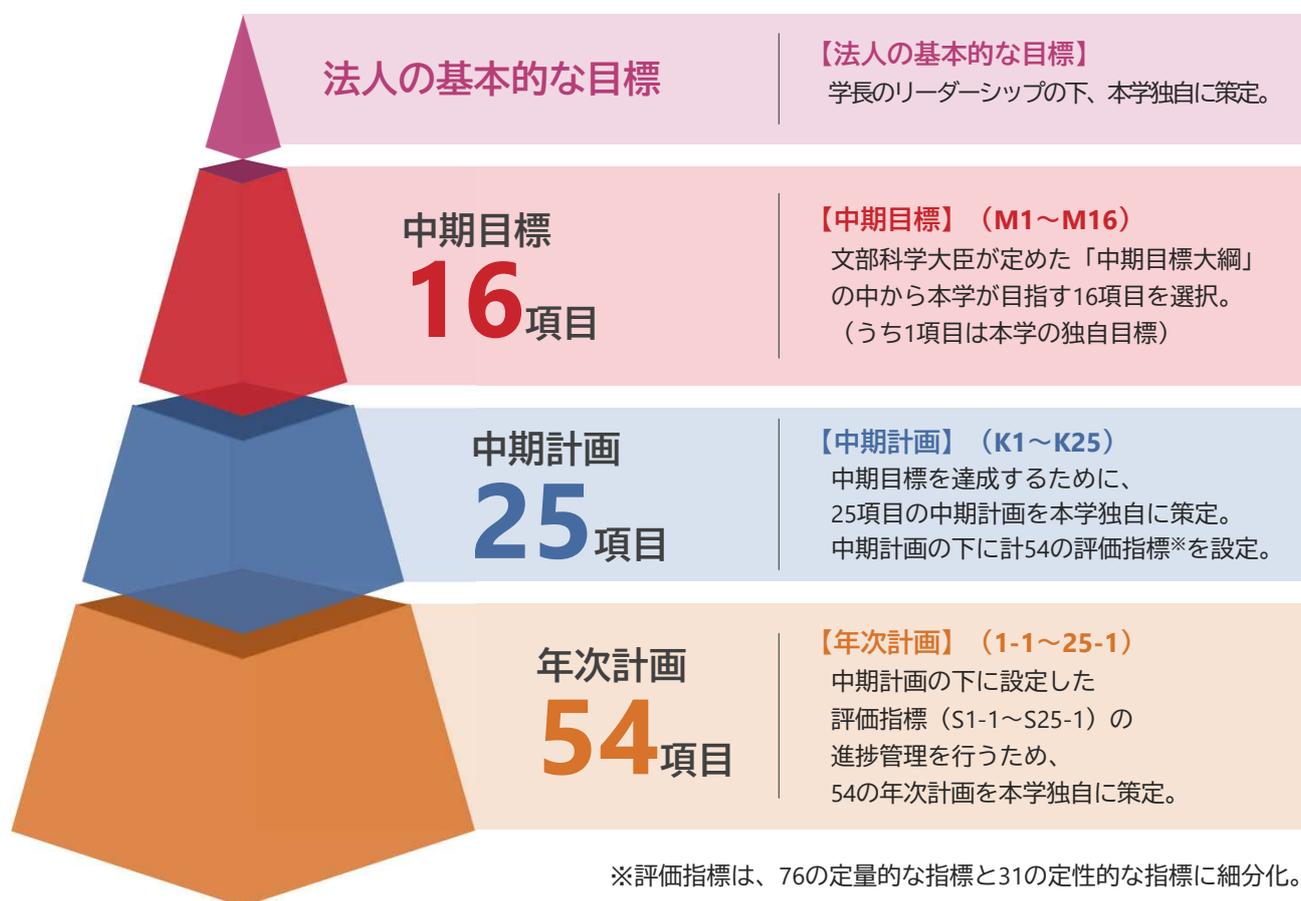
【I.はじめに】

この項目では、本学の第4期中期目標・中期計画の全体像、及びこれらの目標・計画を踏まえて作成した「令和5年次計画」の概要や、令和4年度に発足した4機構・10研究所の概要について記載しています。

【I.はじめに】

1. 本学の第4期中期目標・中期計画

【お茶の水女子大学の第4期中期目標・中期計画の体系図】



【令和5年次計画54項目 全体の自己評価結果】

区分	判定	件数
【iii】	達成水準を大きく上回っている	10件
【ii】	達成水準を満たしている	40件
【i】	達成水準を満たしていない	4件

※令和5年次計画の自己評価は、上記の三段階の区分によって判定を行っています。

※各計画の自己評価結果の詳細については、別添の令和5事業年度に係る業務の実績に関する報告書を参照願います。

【I.はじめに】

2. 令和5年次計画及び実績の概要

法人の基本的な目標（第4期中期目標・中期計画前文）

ミッション：学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する。

ビジョン：「総合知を持ち社会を革新する人材の養成」「持続可能な社会実現のための研究推進」
「女性が活躍できる社会の実現」

教育【26計画】

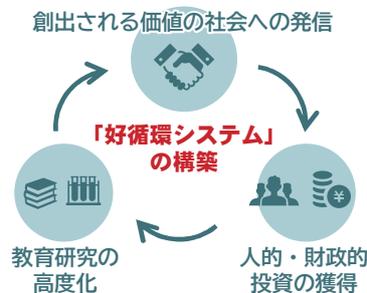
- 総合知開発研究機構の取組
- 共創工学部設置に向けた取組
- 入試に関する取組
- 学部・大学院教育の充実
- 国際交流に関する取組

附属学校【2計画】

- 大学と附属学校園の連携強化
- 総合知育成モデルの探究
- お茶の水女子大附属学校園
教材・論文データベースによる
成果発信

社会との共創【9計画】

- グローバル女性リーダー育成研究機構の取組
- ヒューマンライフィノベーション開発研究機構の取組
- サステイナブル社会実装機構の取組



研究【3計画】

- 女性教員比率・女性教授比率の維持・向上
- 多様な研究者への支援
- クロスアポイントメント制度を活用した研究者交流

業務運営【14計画】

- ステークホルダーとの共創
- 施設マネジメント
- 大学の自己収入の強化
- 自己点検・評価体制の確立
- 業務の効率化・高度化

第4期中期目標期間（令和4～9年度）の2年目である令和5年度においては、
上記の構想・取組をさらに加速させるため、連携機関との実践を深めた

令和4年度の協定締結を受けた令和5年度の具体的な取組事例

SDGs

▶OCHA-SDGs学生委員会の学生が考案したレシピがセブン&アイホールディングスWebサイト「賢者のレシピ」に掲載。

（株）セブン&アイホールディングスと「SDGsに関する包括協定」締結（R4.9）

産学連携

& ジェンダー・イノベーション

三井不動産 × お茶の水女子大学

▶「性差を生かす」という新たな視点を社会にもっと根付かせたい、という思いから情報発信や実践活動を行う。Webマガジン「note」にレポートやインタビュー記事を多数掲載。

三井不動産（株）と「産学連携の推進に関する包括的連携協力に係る協定」締結(R5.2)

連携及び協力

▶令和5年度より全学共通科目「日本の伝統芸能」を開講。舞台鑑賞やワークショップ等を通じて多角的な学びを展開。

日本芸術文化振興会と「連携及び協力に関する協定」締結(R5.3)

令和5年度に新たに協定を締結した主な事例

連携及び協力

福井大学と「連携及び協力に関する連携」(R5.11)

【主な協力及び連携内容】

- ①男女共同参画推進に関する事
- ②研究交流及び人材交流に関する事
- ③人材育成の相互支援に関する事
- ④産学連携に関する事
- ⑤地域創生に関する事

産学連携

東京ガス（株）と「地域のレジリエンス向上及びサステイナブル・キャンパスの実現に向けた包括連携協定」(R6.2)

【連携事項】

- ①共同研究・地域のレジリエンス向上に関わる同事業に関する事項
- ②サステイナブル・キャンパスの実現に向けた取組に関する事項
- ③SDGs推進に関わる専門的人材の育成に関する事項
- ④SDGs推進に係る取組の発信に関する事項
- ⑤その他、本協定の目的を達成するために必要な事項

【I.はじめに】

3. 令和4年度に発足した4機構・10研究所の概要（価値創造プロセス）（1/2）

①グローバル女性リーダー育成研究機構 関連計画：1-1、1-2

（グローバルリーダーシップ研究所、ジェンダー研究所、ジェンダード・イノベーション研究所）



②ヒューマンライフイノベーション開発研究機構 関連計画：2-1

（ヒューマンライフサイエンス研究所、人間発達教育科学研究所）



【I.はじめに】

3. 令和4年度に発足した4機構・10研究所の概要（価値創造プロセス）（2/2）

③サステナブル社会実装機構 関連計画：3-1～3-5
（SDGs推進研究所、湾岸生物教育研究所）



④総合知開発研究機構 関連計画：5-1～5-3、6-1、7-1、8-1

（コンピテンシー育成開発研究所、理系女性育成啓発研究所、サイエンス&エデュケーション研究所）



【目次】

I. はじめに

II. 全ての定量的な評価指標の達成状況について

III. 各分野の取組について

【II.全ての定量的な評価指標の達成状況について】

この項目では、本学の第4期中期計画に設定された54の評価指標（S1-1~S25-1）について、76の定量的な評価指標と、31の定性的な評価指標に細分化したうえで、全76の定量的な評価指標の達成状況について記載しています。定性的な評価指標の達成状況については、別添の令和5事業年度に係る業務の実績に関する報告書を参照願います。

II. 全ての定量的な評価指標の達成状況について(1/10)

【凡例】 ■：社会との共創に関する目標・計画 ■：教育に関する目標・計画 ■：研究に関する目標・計画
 ■：附属学校に関する目標・計画 ■：業務運営に関する目標・計画

※ 赤色の数字の実績値については、年次計画の目標値を達成したことを示す。

※ 黄色の中期計画達成度については、令和5年度時点で進捗が当初予定より遅れていることを示す。

なお、達成時期を「第4期平均」、「毎年度」と設定している指標は「令和5年度時点での平均値」をもとに達成度を算出。

(1)評価指標【S1-1】	(2)評価指標【S1-1】	(3)評価指標【S1-1】	(4)評価指標【S1-1】
 <p>ジェンダー・イノベーション研究所における共同研究・プロジェクト数</p>	 <p>ジェンダー・イノベーション研究所における論文発表数</p>	 <p>ジェンダー・イノベーション研究所における知的財産権の申請件数</p>	 <p>ジェンダー・イノベーション研究所における起業支援の件数</p>
<p>R5年度実績</p> <p>8件/目標値1件</p>	<p>R5年度実績</p> <p>4本/目標値2本</p>	<p>R5年度実績</p> <p>1件/目標値(未設定)件</p>	<p>R5年度実績</p> <p>1件/目標値1件</p>
<p>R6年度計画</p> <p>目標値2件</p>	<p>R6年度計画</p> <p>目標値4本</p>	<p>R6年度計画</p> <p>目標値1件</p>	<p>R6年度計画</p> <p>目標値- (未設定) 件</p>
<p>中期計画達成度 (R4+R5)</p> <p>300% (計18件) (目標: R9までに計6件)</p>	<p>中期計画達成度 (R4+R5)</p> <p>25% (計5本) (目標: R9までに計20本)</p>	<p>中期計画達成度 (R4+R5)</p> <p>50% (計1件) (目標: R9までに計2件)</p>	<p>中期計画達成度 (R4+R5)</p> <p>50% (計1件) (目標: R9までに計2件)</p>
(5)評価指標【S1-2】	(6)評価指標【S1-2】	(7)評価指標【S1-2】	(8)評価指標【S1-2】
 <p>ジェンダー研究所及びグローバルリーダーシップ研究所における共同研究・プロジェクト数</p>	 <p>ジェンダー研究所及びグローバルリーダーシップ研究所における国内外からの研究者招聘数</p>	 <p>ジェンダー研究所及びグローバルリーダーシップ研究所におけるシンポジウム等開催数</p>	 <p>ジェンダー研究所及びグローバルリーダーシップ研究所における論文発表数</p>
<p>R5年度実績</p> <p>11件/目標値5件</p>	<p>R5年度実績</p> <p>16名/目標値10名</p>	<p>R5年度実績</p> <p>12件/目標値8件</p>	<p>R5年度実績</p> <p>29本/目標値10本</p>
<p>R6年度計画</p> <p>目標値5件</p>	<p>R6年度計画</p> <p>目標値10名</p>	<p>R6年度計画</p> <p>目標値8件</p>	<p>R6年度計画</p> <p>目標値10本</p>
<p>中期計画達成度 (R4+R5)</p> <p>230% (平均11.5件) (目標: 毎年度5件)</p>	<p>中期計画達成度 (R4+R5)</p> <p>180% (平均18名) (目標: 毎年度10名)</p>	<p>中期計画達成度 (R4+R5)</p> <p>194% (平均15.5件) (目標: 毎年度8件)</p>	<p>中期計画達成度 (R4+R5)</p> <p>71.7% (計43本) (目標: R9までに60本)</p>

Ⅱ. 全ての定量的な評価指標の達成状況について(2/10)

【凡例】 ■：社会との共創に関する目標・計画 ■：教育に関する目標・計画 ■：研究に関する目標・計画
 ■：附属学校に関する目標・計画 ■：業務運営に関する目標・計画

※ 赤色の数字の実績値については、年次計画の目標値を達成したことを示す。

※ 黄色の中期計画達成度については、令和5年度時点で進捗が当初予定より遅れていることを示す。

なお、達成時期を「第4期平均」、「毎年度」と設定している指標は「令和5年度時点での平均値」をもとに達成度を算出。

<p>(9)評価指標【S2-1】</p>  <p>ヒューマンライフイノベーション開発研究機構における共同研究・プロジェクト数、外部資金獲得額</p> <p>R5年度実績 40件・約1.3億円 /目標値30件・6千万円</p> <p>R6年度計画 目標値30件・6千万円</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 122%・225% (平均36.5件・1億3千5百万円) (目標：毎年度30件・6千万円)</p>	<p>(10)評価指標【S3-1】</p>  <p>THEインパクトランキングのうちSDG5の順位</p> <p>R5年度実績 201-300位 /目標値600位以内</p> <p>R6年度計画 目標値100位以内</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 201-300位 (R5実績) (目標：R9までに100位以内)</p>	<p>(11)評価指標【S3-3】</p>  <p>SDGs推進研究所における共同研究・プロジェクト数、外部資金獲得額</p> <p>R5年度実績 4件・約350万円 /目標値1件・2百万円</p> <p>R6年度計画 目標値2件・4百万円</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 50%・23% (計6件・700万円) (目標：R9までに12件・3千万円)</p>	<p>(12)評価指標【S3-3】</p>  <p>SDGs推進研究所における知的財産権の申請件数</p> <p>R5年度実績 1件/目標値1件</p> <p>R6年度計画 目標値1件</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 33.3% (計1件) (目標：R9までに計3件)</p>
<p>(13)評価指標【S3-4】</p>  <p>湾岸生物教育研究所におけるオーダーメイド型臨海実習の実施数</p> <p>R5年度実績 11回・123名 /目標値6回・80名</p> <p>R6年度計画 目標値6回・80名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 183%・158% (平均11回・126名) (目標：第4期平均6回・80名)</p>	<p>(14)評価指標【S3-4】</p>  <p>湾岸生物教育研究所における公開臨海実習の実施数</p> <p>R5年度実績 21大学・32名 /目標値14大学・20名</p> <p>R6年度計画 目標値14大学・20名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 125%・160% (平均17.5大学・32名) (目標：第4期平均14大学・20名)</p>	<p>(15)評価指標【S3-4】</p>  <p>湾岸生物教育研究所における高校生等を対象とした実習等の実施数</p> <p>R5年度実績 13回・306名 /目標値10回・250名</p> <p>R6年度計画 目標値10回・250名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 125%・123% (平均12.5回・307名) (目標：第4期平均10回・250名)</p>	<p>(16)評価指標【S3-4】</p>  <p>湾岸生物教育研究所における海産バイオリソースの提供数</p> <p>R5年度実績 248機関・20,721名 /目標値100機関・10,000名</p> <p>R6年度計画 目標値100機関・10,000名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 236%・190% (平均236機関・約19,000名) (目標：第4期平均100機関・10,000名)</p>

Ⅱ. 全ての定量的な評価指標の達成状況について(3/10)

【凡例】 ■：社会との共創に関する目標・計画 ■：教育に関する目標・計画 ■：研究に関する目標・計画
 ■：附属学校に関する目標・計画 ■：業務運営に関する目標・計画

※ 赤色の数字の実績値については、年次計画の目標値を達成したことを示す。

※ 黄色の中期計画達成度については、令和5年度時点で進捗が当初予定より遅れていることを示す。

なお、達成時期を「第4期平均」、「毎年度」と設定している指標は「令和5年度時点での平均値」をもとに達成度を算出。

<p>(17)評価指標【S3-5】</p>  <p>湾岸生物教育研究所 における論文数</p> <p>R5年度実績 9本/目標値10本</p> <p>R6年度計画 目標値10本</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 115% (平均11.5本) (目標：第4期平均10本)</p>	<p>(18)評価指標【S3-5】</p>  <p>湾岸生物教育研究所 における学会発表数</p> <p>R5年度実績 27件/目標値10件</p> <p>R6年度計画 目標値10件</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 240% (平均24件) (目標：第4期平均10件)</p>	<p>(19)評価指標【S4-1】</p>  <p>アジア・アフリカ の教育者・行政官 等に対する研修の 受講者数</p> <p>R5年度実績 9件/目標値9名</p> <p>R6年度計画 目標値9名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 36% (計20名) (目標：R9までに計55名)</p>	<p>(20)評価指標【S5-2】</p>  <p>理系女性育成啓発 研究所における シンポジウム・ セミナー等の 参加者数</p> <p>R5年度実績 1,432名/目標値800名</p> <p>R6年度計画 目標値800名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 185% (平均1,477名) (目標：第4期平均800名)</p>
<p>(21)評価指標【S5-2】</p>  <p>理系女性育成啓発 研究所が実施する アンケート調査に おける理工系分野 への関心</p> <p>R5年度実績 95.7%/目標値70%</p> <p>R6年度計画 目標値70%</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 136% (平均95.4%) (目標：第4期平均70%)</p>	<p>(22)評価指標【S5-3】</p>  <p>サイエンス& エデュケーション 研究所が実施する 理数教育の実践数 (自治体・学校)</p> <p>R5年度実績 33件・131校 /目標値25件・105校</p> <p>R6年度計画 目標値25件・105校</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 130%・116% (平均32.5件・121.5校) (目標：第4期平均25件・105校)</p>	<p>(23)評価指標【S5-3】</p>  <p>サイエンス& エデュケーション 研究所が開発する コンテンツのDL数</p> <p>R5年度実績 800件/目標値540件</p> <p>R6年度計画 目標値540件</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 135% (平均732件) (目標：第4期平均540件)</p>	<p>(24)評価指標【S6-1】</p>  <p>コンピテンシー 育成支援システム を活用する学生 の割合</p> <p>R5年度実績 ー% (R7年度) 開始予定</p> <p>R6年度計画 目標値 - (未設定) 件</p> <p>中期計画達成度 ー% (R7年度開始予定) (目標：R9までに70%)</p>

Ⅱ. 全ての定量的な評価指標の達成状況について(4/10)

【凡例】 ■：社会との共創に関する目標・計画 ■：教育に関する目標・計画 ■：研究に関する目標・計画
 ■：附属学校に関する目標・計画 ■：業務運営に関する目標・計画

※ 赤色の数字の実績値については、年次計画の目標値を達成したことを示す。

※ 黄色の中期計画達成度については、令和5年度時点で進捗が当初予定より遅れていることを示す。

なお、達成時期を「第4期平均」、「毎年度」と設定している指標は「令和5年度時点での平均値」をもとに達成度を算出。

(25)評価指標【S7-1】



キャリア支援・
キャリア相談の
利用者数

R5年度実績

4,358名
/目標値3,360名

R6年度計画

目標値**3,360**名

中期計画達成度 (R4+R5)

126% (平均延べ4,239名)
(目標：毎年度延べ3,360名)

(26)評価指標【S8-1】



日本文化(伝統芸能)
に関するセミナー・
シンポジウム開催数

R5年度実績

4件/目標値**3**件

R6年度計画

目標値**4**件

中期計画達成度 (R4+R5)

117% (平均3.5件)
(目標：毎年度3件)

(27)評価指標【S8-1】



日本文化(伝統芸能)
に関するセミナー・
シンポジウムの
参加者の満足度

R5年度実績

96.3%/目標値**80%**

R6年度計画

目標値**80%**

中期計画達成度 (R4+R5)

123% (平均98.2%)
(目標：毎年度80%)

(28)評価指標【S8-2】



グローバル女性
リーダー育成に
関する科目及び
キャリアデザイン
科目の履修者数

R5年度実績

521名/目標値**450**名

R6年度計画

目標値**450**名

中期計画達成度 (R4+R5)

109% (平均491名)
(目標：毎年度450名)

(29)評価指標【S9-1】



共創工学部
の志願者倍率

R5年度実績

3.16倍/目標値**3**倍

R6年度計画

目標値**3**倍

中期計画達成度 (R5)

105% (3.16倍)
(目標：R5以降毎年度3倍)

(30)評価指標【S9-1】



共創工学部
における教育の
総合満足度

R5年度実績

100% (R6年度開始予定)

R6年度計画

目標値**70%**

中期計画達成度

100% (R6年度開始予定)
(目標：R6以降毎年度70%)

(31)評価指標【S10-1】



リベラルアーツ科目
と複数プログラム
選択履修制度に
対する満足度

R5年度実績

LA科目 **94.1%** 複数プログラム **72.0%**
/目標値 各**70%**

R6年度計画

目標値**70%**

中期計画達成度 (R4+R5)

126%
(平均：LA科目96.6%、副プログラム科目79.3%)
(目標：毎年度70%)

(32)評価指標【S10-2】



数理・データ
サイエンス・AI教育
プログラムの
履修者数

R5年度実績

延べ**176**名/目標値**130**名

R6年度計画

目標値**130**名

中期計画達成度 (R4+R5)

139% (平均180.5名)
(目標：毎年度130名)

II. 全ての定量的な評価指標の達成状況について(5/10)

【凡例】 ■：社会との共創に関する目標・計画 ■：教育に関する目標・計画 ■：研究に関する目標・計画
 ■：附属学校に関する目標・計画 ■：業務運営に関する目標・計画

※ 赤色の数字の実績値については、年次計画の目標値を達成したことを示す。

※ 黄色の中期計画達成度については、令和5年度時点で進捗が当初予定より遅れていることを示す。

なお、達成時期を「第4期平均」、「毎年度」と設定している指標は「令和5年度時点での平均値」をもとに達成度を算出。

<p>(33)評価指標【S10-2】</p>  <p>数理・データサイエンス・AI教育プログラムにおけるリテラシーレベル修了者数</p> <p>R5年度実績 26名/目標値50名</p> <p>R6年度計画 目標値68名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 13% (計40名) (目標: R9までに300名)</p>	<p>(34)評価指標【S10-2】</p>  <p>アントレプレナー育成のための授業の履修者数</p> <p>R5年度実績 100名/目標値35名</p> <p>R6年度計画 目標値35名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 283% (平均99名) (目標: 毎年度35名)</p>	<p>(35)評価指標【S11-2】</p>  <p>附属高校生の大学授業の受講者数</p> <p>R5年度実績 延べ68名/目標値60名</p> <p>R6年度計画 目標値60名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 41% (計延べ146名) (目標: R9までに延べ360名)</p>	<p>(36)評価指標【S12-1】</p>  <p>学士・修士一貫トラック修了生</p> <p>R5年度実績 13名/目標値4名</p> <p>R6年度計画 目標値4名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 78% (計21名) (目標: R9までに27名)</p>
<p>(37)評価指標【S12-1】</p>  <p>大学院副専攻プログラム履修者数</p> <p>R5年度実績 87名/目標値72名</p> <p>R6年度計画 目標値77名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 31% (計135名) (目標: R9までに435名)</p>	<p>(38)評価指標【S12-2】</p>  <p>博士前期課程学生のインターンシップ派遣企業数・人数</p> <p>R5年度実績 31件・40名 /目標値30件・25名</p> <p>R6年度計画 目標値35件・30名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 246%・165% (平均企業数32件・参加者数33名) (目標: 毎年度13件・20名)</p>	<p>(39)評価指標【S13-1】</p>  <p>お茶大アカデミックプロダクション大学院フェローシップの採用学生数</p> <p>R5年度実績 6名/目標値6名</p> <p>R6年度計画 目標値6名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 100% (平均6名) (目標: 毎年度6名)</p>	<p>(40)評価指標【S13-2】</p>  <p>自主協働研究科目(PBTS I・II)の履修者数</p> <p>R5年度実績 6名/目標値7名</p> <p>R6年度計画 目標値7名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 100% (平均7名) (目標: 毎年度7名以上)</p>

Ⅱ. 全ての定量的な評価指標の達成状況について(6/10)

【凡例】 ■：社会との共創に関する目標・計画 ■：教育に関する目標・計画 ■：研究に関する目標・計画
 ■：附属学校に関する目標・計画 ■：業務運営に関する目標・計画

※ 赤色の数字の実績値については、年次計画の目標値を達成したことを示す。

※ 黄色の中期計画達成度については、令和5年度時点で進捗が当初予定より遅れていることを示す。

なお、達成時期を「第4期平均」、「毎年度」と設定している指標は「令和5年度時点での平均値」をもとに達成度を算出。

<p>(41)評価指標【S13-2】</p>  <p>博士後期課程の教育プログラムから派生した産学官連携件数</p> <p>R5年度実績 13件/目標値1件</p> <p>R6年度計画 目標値1件</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 233% (平均7件) (目標: 毎年度3件)</p>	<p>(42)評価指標【S13-2】</p>  <p>博士後期課程の教育プログラムから派生したシンポジウム・ワークショップ等の件数</p> <p>R5年度実績 3件/目標値1件</p> <p>R6年度計画 目標値1件</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 167% (計5件) (目標: R9までに3件)</p>	<p>(43)評価指標【S13-2】</p>  <p>博士後期課程の教育プログラムから派生した知的財産権の申請件数</p> <p>R5年度実績 1件/目標値1件</p> <p>R6年度計画 目標値1件</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 100% (計3件) (目標: R9までに3件)</p>	<p>(44)評価指標【S14-1】</p>  <p>社会人女性のためのリカレント講座の受講者数</p> <p>R5年度実績 336名/目標値120名</p> <p>R6年度計画 目標値120名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 290% (平均348名) (目標: 毎年度120名)</p>
<p>(45)評価指標【S15-1】</p>  <p>海外大学との大学間交流協定締結数</p> <p>R5年度実績 94大学/目標値92大学</p> <p>R6年度計画 目標値94大学</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 94% (計94大学) (目標: R9までに100大学)</p>	<p>(46)評価指標【S15-2】</p>  <p>学部卒業時に留学経験を持つ学生の比率</p> <p>R5年度実績 21.2%/目標値24%</p> <p>R6年度計画 目標値24%</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 89% (平均21.4%) (目標: 毎年度24%)</p>	<p>(47)評価指標【S15-3】</p>  <p>学部卒業時に外国語力スタンダードを達成する学生の比率</p> <p>R5年度実績 14.9%/目標値20%</p> <p>R6年度計画 目標値20%</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 84% (平均16.7%) (目標: 毎年度20%)</p>	<p>(48)評価指標【S15-4】</p>  <p>国際交流プログラムの件数・受講学生数(本学学生)</p> <p>R5年度実績 29件・498名 /目標値12件・243名</p> <p>R6年度計画 目標値12件・243名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 216%・187% (平均26件・456名) (目標: 毎年度12件・243名)</p>

Ⅱ. 全ての定量的な評価指標の達成状況について(7/10)

【凡例】 ■：社会との共創に関する目標・計画 ■：教育に関する目標・計画 ■：研究に関する目標・計画
 ■：附属学校に関する目標・計画 ■：業務運営に関する目標・計画

※ 赤色の数字の実績値については、年次計画の目標値を達成したことを示す。

※ 黄色の中期計画達成度については、令和5年度時点で進捗が当初予定より遅れていることを示す。

なお、達成時期を「第4期平均」、「毎年度」と設定している指標は「令和5年度時点での平均値」をもとに達成度を算出。

<p>(49)評価指標【S16-1】</p>  <p>外国人留学生 同窓会の会員数</p> <p>R5年度実績 567名/目標値430名</p> <p>R6年度計画 目標値600名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 126% (計567名) (目標: R9までに450名)</p>	<p>(50)評価指標【S16-2】</p>  <p>全学生に占める 外国人留学生比率</p> <p>R5年度実績 11.8%/目標値12%</p> <p>R6年度計画 目標値14%</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 79% (平均11%) (目標: 毎年度14%)</p>	<p>(51)評価指標【S16-3】</p>  <p>外国語で開講 する授業数</p> <p>R5年度実績 116科目 /目標値110科目</p> <p>R6年度計画 目標値110科目</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 117% (平均129科目) (目標: 第4期平均110科目)</p>	<p>(52)評価指標【S16-4】</p>  <p>国際交流プログラムの 件数・受講学生数 (外国人学生)</p> <p>R5年度実績 23件・795名 /目標値3件・135名</p> <p>R6年度計画 目標値135名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 667%・467% (平均20件・631名) (目標: 毎年度3件・135名)</p>
<p>(53)評価指標【S17-1】</p>  <p>学生懇談会 実施数</p> <p>R5年度実績 2件/目標値2回</p> <p>R6年度計画 目標値2回</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 100% (平均2回) (目標: 毎年度2回)</p>	<p>(54)評価指標【S17-1】</p>  <p>新学生宿舎における 意見交換会実施数</p> <p>R5年度実績 2回/目標値2回</p> <p>R6年度計画 目標値2回</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 100% (平均2回) (目標: 毎年度2回)</p>	<p>(55)評価指標【S18-1】</p>  <p>全教員に占める 女性教員の比率</p> <p>R5年度実績 44.1%/目標値40%</p> <p>R6年度計画 目標値46%</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 90% (R5時点44.1%) (目標: R9までに49%以上)</p>	<p>(56)評価指標【S18-1】</p>  <p>教授職に占める 女性教員の比率</p> <p>R5年度実績 35%/目標値30%</p> <p>R6年度計画 目標値36%</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 88% (R5時点35%) (目標: R9までに40%以上)</p>

Ⅱ. 全ての定量的な評価指標の達成状況について(8/10)

【凡例】 ■：社会との共創に関する目標・計画 ■：教育に関する目標・計画 ■：研究に関する目標・計画
 ■：附属学校に関する目標・計画 ■：業務運営に関する目標・計画

※ 赤色の数字の実績値については、年次計画の目標値を達成したことを示す。

※ 黄色の中期計画達成度については、令和5年度時点で進捗が当初予定より遅れていることを示す。

なお、達成時期を「第4期平均」、「毎年度」と設定している指標は「令和5年度時点での平均値」をもとに達成度を算出。

<p>(57)評価指標【S18-2】</p> <p> 本学独自の研究支援3計画を利用した研究者数</p> <p>R5年度実績 延べ31名/目標値31名</p> <p>R6年度計画 目標値31名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 110% (平均延べ34名) (目標：毎年度延べ31名)</p>	<p>(58)評価指標【S18-3】</p> <p> クロスアポイントメント制度利用者数(本学採用者)</p> <p>R5年度実績 5名/目標値6名</p> <p>R6年度計画 目標値7名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 50% (R5時点5名) (目標：R9までに10名)</p>	<p>(59)評価指標【S19-1】</p> <p> 附属学校園教材・論文データベースの記載件数・利用者数</p> <p>R5年度実績 83件・3,034名 /目標値52件・1,500名</p> <p>R6年度計画 目標値52件・1,500名</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 156%・196% (平均81件・2,940名) (目標：毎年度52件・1,500名)</p>	<p>(60)評価指標【S19-1】</p> <p> 附属学校園におけるシンポジウム・セミナー等実施数</p> <p>R5年度実績 9件/目標値4件</p> <p>R6年度計画 目標値4件以上</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 200% (平均8件) (目標：毎年度4件以上)</p>
<p>(61)評価指標【S19-2】</p> <p> 附属学校園における教育実習生の受入数</p> <p>R5年度実績 101名/目標値100名</p> <p>R6年度計画 目標値100名以上</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 101% (平均101名) (目標：毎年度100名)</p>	<p>(62)評価指標【S19-2】</p> <p> 附属学校園におけるインターンシップ受入数</p> <p>R5年度実績 58名/目標値35名</p> <p>R6年度計画 目標値35名以上</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 139% (平均48名) (目標：毎年度35名)</p>	<p>(63)評価指標【S19-2】</p> <p> 附属学校園を活用した大学教員のFD件数</p> <p>R5年度実績 4回/目標値3回</p> <p>R6年度計画 目標値3回以上</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 133% (平均4回) (目標：毎年度3回)</p>	<p>(64)評価指標【S19-2】</p> <p> FDを通じて大学と附属学校の連携に関する意識向上及び授業改善に活かすことができたとする割合</p> <p>R5年度実績 84.1%/目標値80%</p> <p>R6年度計画 目標値80%以上</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 106% (平均85%) (目標：毎年度80%)</p>

Ⅱ. 全ての定量的な評価指標の達成状況について(9/10)

【凡例】 ■：社会との共創に関する目標・計画 ■：教育に関する目標・計画 ■：研究に関する目標・計画
 ■：附属学校に関する目標・計画 ■：業務運営に関する目標・計画

※ 赤色の数字の実績値については、年次計画の目標値を達成したことを示す。

※ 黄色の中期計画達成度については、令和5年度時点で進捗が当初予定より遅れていることを示す。

なお、達成時期を「第4期平均」、「毎年度」と設定している指標は「令和5年度時点での平均値」をもとに達成度を算出。

<p>(65)評価指標【S20-1】</p>  <p>経営協議会 開催数</p> <p>R5年度実績 4回/目標値4回</p> <p>R6年度計画 目標値4回</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 100% (平均4回) (目標：毎年度4回)</p>	<p>(66)評価指標【S20-1】</p>  <p>学長特別顧問など 有識者と学長及び 法人執行部との 話し合いの場の数</p> <p>R5年度実績 5回/目標値4回</p> <p>R6年度計画 目標値4回</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 112% (平均4.5回) (目標：毎年度4回)</p>	<p>(67)評価指標【S20-2】</p>  <p>経営協議会の 学外委員からの提言 の中で法人経営や 大学改革ビジョン に活用した数</p> <p>R5年度実績 4回/目標値4回</p> <p>R6年度計画 目標値4件</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 100% (平均4件) (目標：毎年度4件)</p>	<p>(68)評価指標【S21-1】</p>  <p>役職者全体に 占める女性の比率</p> <p>R5年度実績 44.7%/目標値35%</p> <p>R6年度計画 目標値46%</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 89% (R5時点44.7%) (目標：R9までに50%以上)</p>
<p>(69)評価指標【S21-1】</p>  <p>経営協議会委員に 占める女性の比率 (学外委員)</p> <p>R5年度実績 50%/目標値35%</p> <p>R6年度計画 目標値50%</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 96% (R5時点50%) (目標：R9までに52%以上)</p>	<p>(70)評価指標【S22-1】</p>  <p>CO2排出量の 低減率</p> <p>R5年度実績 66.5%/目標値2%</p> <p>R6年度計画 目標値対R2年度比65%</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 33.3倍 (3325%) (R5時点) (目標：R9までにR2比2%低減)</p>	<p>(71)評価指標【S23-1】</p>  <p>大学の自己収入額 1)寄附金収入 2)受託研究等収入 3)その他収入の合計</p> <p>R5年度実績 17.4億円 /目標値12.5億円</p> <p>R6年度計画 目標値12.5億円</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 152% (平均19.4億円) (目標：第4期平均12.7億円)</p>	<p>(72)評価指標【S23-2】</p>  <p>機能強化すべき 組織、取組に 対する予算配分額</p> <p>R5年度実績 約3.7億円 /目標値3.5億円</p> <p>R6年度計画 目標値3.5億円</p> <p>中期計画達成度 (R4+R5) 103% (平均3.6億円) (目標：毎年度3.5億円)</p>

Ⅱ. 全ての定量的な評価指標の達成状況について(10/10)

【凡例】 ■：社会との共創に関する目標・計画 ■：教育に関する目標・計画 ■：研究に関する目標・計画
 ■：附属学校に関する目標・計画 ■：業務運営に関する目標・計画

※ 赤色の数字の実績値については、年次計画の目標値を達成したことを示す。

※ 黄色の中期計画達成度については、令和5年度時点で進捗が当初予定より遅れていることを示す。

なお、達成時期を「第4期平均」、「毎年度」と設定している指標は「令和5年度時点での平均値」をもとに達成度を算出。

(73)評価指標【S24-4】	(74)評価指標【S24-4】	(75)評価指標【S25-1】	(76)評価指標【S25-2】
 <p>教員個人活動評価 における 定量的評価の 素点実績</p>	 <p>THE日本大学 ランキング における順位</p>	 <p>デジタル化された 業務の数</p>	 <p>情報セキュリティ 向上のための 研修の実施回数</p>
<p>R5年度実績</p> <p>約201.6点 /目標値188点</p>	<p>R5年度実績</p> <p>一位/目標値25位以内 <small>(結果公表がR6.3からR7.3へ変更のため実績「-」)</small></p>	<p>R5年度実績</p> <p>18件/目標値4件</p>	<p>R5年度実績</p> <p>3回/目標値2回</p>
<p>R6年度計画</p> <p>目標値195点</p>	<p>R6年度計画</p> <p>目標値25以内</p>	<p>R6年度計画</p> <p>目標値3件</p>	<p>R6年度計画</p> <p>目標値2回</p>
<p>中期計画達成度 (R4+R5)</p> <p>100% (R5時点約201.6点) (目標：R9までに201点)</p>	<p>中期計画達成度 (R4+R5)</p> <p>R4時点32位 (目標：R9までに25位)</p>	<p>中期計画達成度 (R4+R5)</p> <p>200% (計30件) (目標：R9までに15件)</p>	<p>中期計画達成度 (R4+R5)</p> <p>150% (平均3回) (目標：毎年度2回)</p>

総評：76の定量的な評価指標のうち68の指標が順調に達成・進捗。

- 達成・進捗が遅れている指標の対応・改善策については本資料31頁参照（全5項目）。
- 定性的な評価指標の達成状況については、別添の令和5事業年度の業務の実績に関する報告書を参照。

【目次】

I. はじめに

II. 全ての定量的な評価指標の達成状況について

III. 各分野の取組について

【Ⅲ.各分野の取組について】

この項目では、各分野（カテゴリー）ごとに、令和5年次計画に沿って実施した取組のうち、特色ある取組を抜粋して記載しています。なお、各計画の達成状況の自己評価については、以下の三段階（i～iii）の区分によって行っています。

【iii】達成水準を大きく上回っている

【ii】達成水準を満たしている

【i】達成水準を満たしていない

【Ⅲ. 各分野の取組】

1. 総務・理系女性育成・創立150周年事業・同窓会(1/2)

R5実績 の概要

- 初等中等教育における女性の理系進路選択に向けた取組を促進。
- 他大学等のモデルとなるべく、政府目標よりも高い女性役職者比率（44.7%）を維持。
- 大学の自己収入は、目標値を大きく上回る約17.4億円。

(1) 理系女性育成啓発研究所における取組（年次計画5-2）

【シンポジウム・セミナーの開催】

- 女子中高生やその保護者を対象とする「リケジョ-未来シンポジウム」や、JST事業の女子中高生の理系進路選択支援プログラムを通じた「フロントランナーセミナー」等を開催した。令和5年度に開催したシンポジウム・セミナーは計32件、参加者は**1,428名（目標値800名）**であった。また、各イベントの参加者を対象としたアンケート調査結果における理工系分野への関心が高まったと回答した割合は約**96%（目標値70%）**と非常に高い結果であった。

【活動実績】

- 日本の理系女性人材の育成を加速化させるため、「文部科学省 情報ひろば」において「女子中高生の理系への進路選択を後押しするために」をテーマとする企画展示を開催した。
- 令和5年8月には、女子中高生の理系関心度に合わせた理系進路選択を推進する取組が高く評価され、日産財団第6回リカジョ育成賞※準グランプリを受賞した。
※女子中高生を対象に、理系における興味・関心の向上や能力の育成を目的とした活動を表彰



- 研究所HPや刊行物、オリジナルバッグ等を通じて広く発信



日産財団第6回リカジョ
育成賞 準グランプリ受賞



自己評価

評価結果【iii】（達成水準を大きく上回っている）

【理由】シンポジウム・セミナーの参加者、及びアンケート満足度が目標値を大きく上回るとともに、『女子中高生のためのイノベーション入門』を継続して作成・公表する等、広報・啓発活動を強化し、理系人材育成プログラムの開発・実践も予定どおり実施しているため。

(2) 高い女性役職者比率の維持・向上（年次計画21-1）

【女性役職者比率：35%の達成】

- 本学のミッション・ビジョンの実現に向け、女性の視点を取り入れた法人運営・法人経営を推進するため、学長が主催する教員人事会議における女性教員の積極的採用の周知及び学長や理事を補佐する役職への女性教員の積極的登用を令和4年度から継続して行っている。令和5年度は学長補佐6名中4名が女性教員の採用となり、令和5年度の女性役職者比率は**44.7%（目標値35%）**となった。また、**経営協議会委員（学外委員）の女性比率は50%（目標値35%）**となった。

【更なる比率の向上を目指して】

- 本学が女性役職者の比率を高めることは、男女共同参画の実現に繋がり、社会に変革をもたらすと考え、令和5年度に文部科学省へ中期目標の変更申請を行い、**女性役職者比率は「50%」、経営協議会学外委員に占める女性比率は「52%」の達成を令和9年度末までに目指すこととした。**

政府目標：指導的地位に占める女性の割合が2020年代の可能な限り早期に30%程度となるよう目指す。
（第5次男女共同参画基本計画(R2.12.25)）



本学の女性
役職者比率
44.7%
(R4: 44.7%)

本学の経営協議会
学外委員の女性比率
50.0%
(R4: 50.0%)

自己評価

評価結果【iii】（達成水準を大きく上回っている）

【理由】女性役職者比率、経営協議会委員の女性比率ともに目標値を大きく上回ったため。また、文部科学省へ中期計画の変更を行い、令和9年度までに、更に高い目標を目指すこととしたため。

【Ⅲ. 各分野の取組】

1. 総務・理系女性育成・創立150周年事業・同窓会(2/2)

(3) 施設マネジメント (年次計画22-1、22-2)

- キャンパスマスタープラン2021に基づく施設マネジメントとして、文教育学部1号館（Ⅱ期）改修工事を実施し、令和5年7月末から工事に着手し、令和6年3月末完成予定であったが、全国的な電気資材の欠品により工事が遅延となり、令和6年度まで工期が延長となった。また、同窓会館跡地整備事業については、令和5年12月より事業者の募集を開始し、令和6年度中の事業契約を予定している。令和5年度のキャンパス全体のCO2排出量は令和2年度比66.5%削減しており、学内のスペース管理については学外へのスペース管理料を改定し、HPで周知するとともに貸付手順をわかりやすく見直した。

キャンパスマスタープラン2021に基づく施設マネジメント

ファシリティマネジメント	×	エネルギーマネジメント	×	スペースマネジメント
				
■ 文教育学部1号館（Ⅱ期）改修工事		■ CO2排出量66.5%削減（対目標値）		■ スペース貸付料は近隣施設との均衡を図り価格改定を実施

自己評価

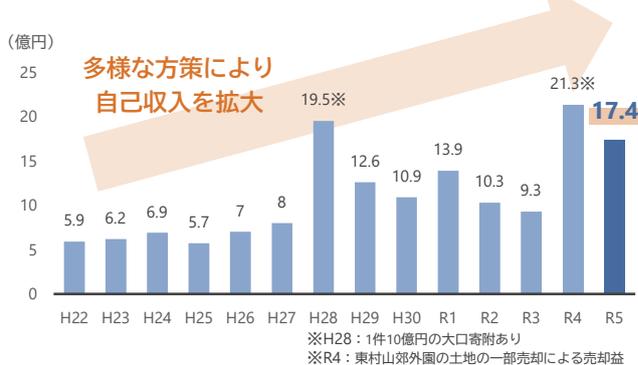
評価結果【ii】（達成水準を満たしている）

【理由】 キャンパスマスタープラン2021に基づき施設設備工事を順調に実施するとともに、学内のスペース管理や改修工事に伴う室機能の維持を適切に行っているため。

(4) 安定的な財務基盤の確立に向けた取組 (年次計画23-1)

- 持続可能な大学経営を確立するための安定的な財務基盤の確立を目指し、保有資産の積極的な活用を推進している。令和5年度は学生寮跡地の定期借地権設定による地代収入が1億2千万円であった。また、同窓会館跡地に複合施設の建設を予定しており、12月に公募を開始し、準備を進めている。さらには、令和7年の創立150周年に向けて設立した記念基金による募金活動の推進等により、令和5年度の大学の自己収入（寄附金等収入・受託研究等収入・その他収入の合計）は、17.4億円/年（目標値12.5億円）となる成果を上げた。

■大学の自己収入の推移（H22-R5）



令和6年度以降の更なる自己収入拡大に向けて


創立150周年記念募金
による寄附金収入の強化


同窓会館跡地の
積極的な活用

自己評価

評価結果【iii】（達成水準を大きく上回っている）

【理由】 自己収入の目標値「12.5億円」を大きく上回る「17.4億円」となったため。

【Ⅲ. 各分野の取組】 2. 教育改革・入試改革(1/2)

R5実績 の概要

- 特色ある教育プログラムにより、様々な分野で活躍する女性リーダーを育成。
- 令和6年度の共創工学部の設置及び入学選抜の実施。
- 総合型選抜「新フンボルト入試」により、伸びしろのある学生を獲得。

(1) 統合データベース構築に向けた取組、及びキャリア支援の取組 (年次計画7-1)

【統合データベースの構築に向けた取組】

- 教学IR・教育開発・学修支援センターを中心に、教学に関する統合データベースの構築を完了するとともに、運用を開始した。報告書等のデータ管理の他、学生個人の相談情報や進路先情報も参照可能であり、より効果的な支援に繋がることが期待できる。

【キャリア支援の取組】

- 学生・キャリア支援センターを中心に、近年の学生の就職活動の早期化等に対応したキャリア支援行事やキャリア相談等の取組を行った。統合データベースを活用したキャリア相談利用データの分析を実施し、学生のニーズに応じた相談枠の設定等を行い、キャリア支援行事の参加者・キャリア相談の利用者は延べ4,358名(目標値3,360名)となった。

自己評価

評価結果【ii】(達成水準を満たしている)

【理由】統合データベースを活用し、データ分析を行うことで学生のニーズに応じた相談枠の設定等により、学生・キャリア支援センターが実施するキャリア支援行事の参加者・キャリア相談の利用者が目標値を達成したため。

(2) 共創工学部の設置及び入学選抜の実施 (年次計画9-1)

- Society 5.0の実現に向け、工学と人文・社会科学が協働する新たな工学分野を担う女性人材を養成するため、令和4年度末に申請した「共創工学部」の設置について、令和5年6月21日付で文部科学省より設置認可された。
- 共創工学部全体の一般選抜における志願者倍率は、前期日程で2.5倍(志願者数:83名/募集人員:33名)、後期日程で7.4倍(志願者数:37名/募集人員:5名)となった。



- 左から谷口(株)ZMP代表取締役社長、佐々木学長、松本総務大臣、プレゼンテーションを行った学生

自己評価

評価結果【ii】(達成水準を満たしている)

【理由】「共創工学部」の「志願者倍率(一般選抜)」が目標値「3倍」を超える「3.16倍(志願者数:120名/募集人員:38名)」となったため。

(3) 数理・データサイエンス・AI教育、及びアントレプレナーシップ教育 (年次計画10-2)

【数理・データサイエンス・AI教育】

- 令和4年度より文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」特定分野校に認定されており、関連科目の履修者は延べ176名(目標値130名)であった。一方で、リテラシーレベル修了者は26名(目標値50名)に留まった。

【アントレプレナーシップ教育】

- 令和3年度に文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」に採択されたことを踏まえ、アントレプレナーシップ関連科目を増設し、関連科目の履修者は100名(目標値35名)と大きく実績をあげた。

学生の成果について



アントレプレナー育成関連科目「アントレプレナーシップ演習(ディープテック編)」を履修した2名の学生が、東京大学が開催したオンラインイベント「UTokyo Day 2023「新しい大学モデル」の実現に向けたトランスフォーメーション」で東京大学総長との対話に登壇した。

自己評価

評価結果【ii】(達成水準を満たしている)

【理由】年次計画の各目標値の達成状況(3項目のうち2項目達成)を総合的に判断したため。また、リテラシーレベル修了者数については、令和6年度以降の対策(レベル分け、構成科目増加等)に取り組んだため。

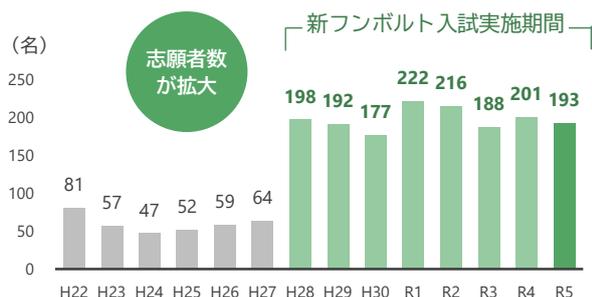
【Ⅲ. 各分野の取組】

2. 教育改革・入試改革(2/2)

(4) 総合型選抜「新フンボルト入試」(年次計画11-1)

- 第3期中期目標期間より継続して総合型選抜「新フンボルト入試」を実施し、一次選考の一環をなすプレゼミナールには、275名(R4:355名)が参加した。志願者数は文系が125名(R4:121名)、理系が68名(R4:80名)の計193名(R4:201名)となり、令和4年度と同程度の水準を確保した。プレゼミナールや入試の事後アンケートにおいても高い満足度が示されており、単なる入学者選抜ではなく、挑んだことで何かが得られるという新フンボルト入試の理念が実現されている。

■総合型選抜(旧AO入試)志願者数の推移(H22-R5)



自己評価

評価結果【ii】(達成水準を満たしている)

【理由】新フンボルト入試に関する取組を予定どおり実施するとともに、各種アンケート調査等においても高い満足度が示されたため。また、調査及び入学者の学修成績調査について令和4年度からの継続アンケートに加え、教学IR・教育開発・学修支援センターが実施する全学生アンケート内容も用いて入試区分別に学生の特徴を分析しており、受験区分毎に比較できる情報に整理して分析を進めたため。

(5) 博士後期課程学生への支援(年次計画13-1)

- 文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」(令和3年度)に採択されたことを踏まえ設置した「お茶大アカデミック・プロダクション大学院生フェローシップ」(年額200万円支給)について、令和5年度は**6名(目標値6名)の学生を採用**した。また、支援を受けた学生の成果について調査を行い、研究活動等が順調に進捗していることを確認した。

自己評価

評価結果【ii】(達成水準を満たしている)

【理由】お茶大アカデミック・プロダクション大学院生フェローシップによる支援を行うとともに、支援を受けた学生の研究活動等が順調に進捗していることを確認したため。

(6) 学生の意見・要望を踏まえた学生サービスの改善に向けた取組(年次計画17-1)

- 学生懇談会を年2回(R5.9、R5.11)開催し、学長や理事・副学長、関係する課の職員等と学生代表者による意見交換を行い、今後の学生サービスの改善等に活かしていくこととした。1回目の懇談会は本学学生により組織された「お茶大版気候市民会議」が提案する本学における環境問題への実施策について意見交換を行った。なお、学生から寄せられた意見と大学の対応状況については、大学ウェブサイトにおいて広く公表している。
- 令和4年度に開寮した新学生宿舍「音羽館」の代表者と教育担当副学長、関係職員による意見交換会を年2回(R5.6、R6.2)開催し、寮生からの要望や意見を確認し、改善について話し合った。
- 学生の多様性を保証し支援する取組として、障害学生支援のためのコーディネーターを令和4年度より引き続き配置し、配慮が必要な学生の相談を受け付け、必要な配慮の提供が出来るよう、体制を整えた。



■ 学生懇談会には学長と全理事・副学長が出席。

学生懇談会の意見を学生サービスの改善に反映させた事例

【事例①TA出勤簿兼勤務確認書の電子化】教員の印鑑・サインを省略し出勤簿画像ファイルでの電子提出とした。

【事例②無線アクセスポイント増強】学生からの要望を踏まえ、Zoom等で活用する無線アクセスポイントを継続して増強。

自己評価

評価結果【ii】(達成水準を満たしている)

【理由】学生懇談会、及び新学生宿舍「音羽館」に入居している寮生との意見交換会を年2回開催し、学生サービスの改善に向けた取組を実施できているため。

【Ⅲ. 各分野の取組】

3. 研究・国際交流・男女共同参画(1/2)

R5実績 の概要

- 各研究所において、社会との共創を目指した特色ある研究・産学連携の取組を推進。
- 男女共同参画の観点に立ったりカレント教育を推進。
- 国際交流の推進に向けて連携機関を拡大。文部科学省「大学の世界展開力事業」に採択。

(1) ジェンダード・イノベーション研究所における取組 (年次計画1-1)

【産学交流会】

- 産学連携を推進するための取組として、ジェンダード・イノベーションに関心を持つ企業が参加する産学交流会やワークショップを計5回(延べ230名参加)開催した。産学交流会では、本学と企業とのジェンダード・イノベーション分野における事例の紹介、本学学生による5領域(①街、②オフィス、③味覚、④繊維、⑤農業)における商品開発の可能性について分析及び提案をし、ワークショップでは、ジェンダード・イノベーション分野の第一人者であるロンダ・シービンガー教授(スタンフォード大学)による「Intersectional Design Cards」を用いたグループワークなどを実施した。

【共同研究・プロジェクトの推進】

- ジェンダード・イノベーション研究所では、内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」第3期課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実装するプラットフォームの構築」に採択され、本学の研究テーマ「D&I社会実現のための学び方・働き方に関する実証研究」に学内の教員、学外の研究機関・企業と連携して研究を進めており、今後の社会実装が期待される。



- 第1回ジェンダード・イノベーション産学交流会(R5.7)の様子
企業16社より37名、学内より学生20名、学生以外11名、合計68名が参加。参加企業の紹介、ジェンダード・イノベーションを学ぶ学生による提案、質疑応答等が行われた。



- (左) ロンダ・シービンガー教授によるワークショップの様子
(右) 対面・オンラインで開催された講演会ポスター(R5.11)

自己評価

評価結果【ii】(達成水準を満たしている)

【理由】産学交流会を開催し、企業との商品開発の可能性について分析・提案を継続して行っており、論文数、企業支援数も目標値を達成したため。

(2) グローバルリーダーシップ研究所、及びジェンダー研究所における取組 (年次計画1-2)

- グローバルリーダーシップ研究所(IGL)、及びジェンダー研究所(IGS)において、11件(目標値5件)の共同研究・プロジェクト、16名(目標値10名)の研究者招聘、12件(目標値8件)のシンポジウム・セミナー・ワークショップ開催、29本(目標値10本)の論文発表等の成果を上げた。
- 令和6年3月に開催したIGS/IGL合同での国際シンポジウム「女性学長国際シンポジウム」(参加者144名)は令和4年度に開催した女性学長サミットに続くもので、ヴァッサー大学(米)、コレッジ・ヌオーヴォ(伊)の学長、本学佐々木学長による各国の女性の地位や活躍に関する現状、女性リーダーシップの重要性、アカデミアにおいて女性リーダーを育むための各大学の取組等について議論が交わされた。



- 世界学長国際シンポジウム(R6.3)

自己評価

評価結果【iii】

(達成水準を大きく満たしている)

【理由】IGS及びIGLにおいて、女性学長国際シンポジウムを開催した。また、他機関との連携を推進する等、すべての指標で目標値を大きく上回ったため。

【Ⅲ. 各分野の取組】

3. 研究・国際交流・男女共同参画(2/2)

(3) ヒューマンライフイノベーション開発研究機構における取組 (年次計画2-1)

- 「こころ」、「からだ」、「食」の三面からのアプローチによる融合研究を推進する取組として、栄養素不足による身体機能や脳機能への影響の研究を推進した。
- ヒューマンライフサイエンス研究所及び人間発達教育科学研究所において国内外の機関から研究者を招聘したシンポジウム・セミナーを計14件（主催4件、共催10件）開催し、研究成果を積極的に学外に向け発信した。
- 取組の成果として、令和5年度のヒューマンライフイノベーション開発研究機構における外部資金獲得実績は**40件・約1.3億円（目標30件・6,000万円）**となった。



自己評価

評価結果【ii】（達成水準を満たしている）

【理由】外部資金獲得に関する各目標値を上回ったため。

(4) 社会人女性のためのリカレント教育 (年次計画14-1)

- 令和5年度は「お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾」において、生物多様性、カーボンニュートラル等に関する専門的な内容を設置し高度なリカレント教育をカバーするカリキュラムを開始した。受講者数は「徽音塾：延べ242名」、「保育・子育て支援ラーニングプログラム：延べ194名」であり、**受講者の総計は延べ336名（目標値120名）**となった。
- また、徽音塾受講生アンケートにおいて、**受講効果（スキル向上・昇進／転職他）自覚：75%（目標値30%）、満足度：93%（目標値50%）**の成果を得た。



自己評価

評価結果【iii】

（達成水準を大きく上回っている）

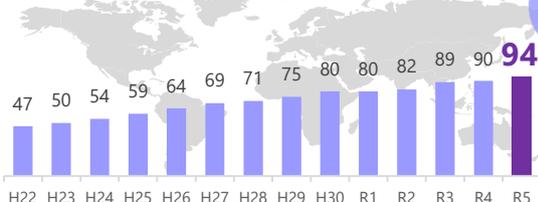
【理由】社会人女性のためのリカレント教育として実施する各講座の受講者数の目標値を大きく上回るとともに、受講生アンケートの目標値を上回ったため。

- お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾パンフレット（表紙）

(5) 国際交流の推進 (年次計画15-1)

- 国際交流の機会拡大に向けて留学フェア等への積極的な参加により、海外協定校の開拓に取り組んだ他、本学の概要や留学環境、魅力等の広報に積極的に取り組んだ結果、令和5年度末時点の海外大学との**大学間交流協定締結数は94大学（目標値92大学）**となった。
- 令和5年9月には、学長のアメリカ出張において、ノースイースタン大学と協定を新規に締結した他、カリフォルニア大学バークレー校、スタンフォード大学、ウェルズリーカレッジ、バーナード・カレッジを訪問し、協定締結や学生交流に関する議論、ジェンダード・イノベーション等の分野における研究協力に関する議論等を行った。
- 大学の世界展開力強化事業「グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実践型EDI」プログラムの採択を受け、EDIプログラム運営委員会を発足し、学生の派遣・受入を行っている。海外連携大学との打合わせはオンライン会議に加え留学フェア等の対面でも行い、EDI-公平性、多様性、包摂性-を兼ね備えたグローバルリーダーを育成している。

■ 海外大学との大学間交流協定締結数 (H22-R5)



自己評価

評価結果【ii】（達成水準を満たしている）

【理由】海外大学との大学間交流協定締結数の目標値を達成し、研究協力に関する議論等積極的に取り組んだため。



- (左) ノースイースタン大学 (Joseph E.Aoun学長と佐々木泰子学長) (右) ウェルズリーカレッジ (Paula A.Johnson学長 (中央) を囲んで)

【Ⅲ. 各分野の取組】

4. 大学評価・学校教育開発支援(1/2)

R5実績 の概要

- 「総合知を持ち社会を革新する人材の養成」に向けて「お茶大コンピテンシー10」を設定し、「コンピテンシー育成支援システム」(CACICA)を開発。
- コンピテンシー育成を柱とした幼児期から大学期までの段階的教育モデルの開発を推進。

(1) コンピテンシー育成開発研究所における取組 (年次計画5-1、6-1)

【お茶大コンピテンシー10】

- 令和4年度に確定したコンピテンシー9項目に、OECDによるプロジェクト「OECD Education 2030」内にて重要視されている要素である「エージェンシー」を加え、学生に磨いてほしい本学独自のコンピテンシーを「お茶大コンピテンシー10」として定め、コンピテンシーの測定や得点化を可能とする「コンピテンシー測定ツール」を開発。

【コンピテンシー育成支援システム (CACICA)】

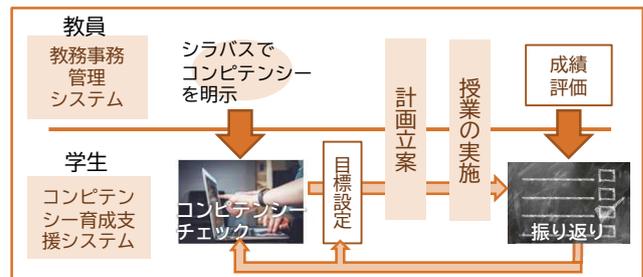
- 学生が自ら強化したいコンピテンシーを設定し、その達成度を測り、伸ばしていくことができる「コンピテンシー育成支援システム」(CACICA)を開発。同時に、教務事務管理システムを改修し、シラバスに授業で育成することができるコンピテンシーを明示できるようにすることで、授業履修によるコンピテンシー育成を支援。授業外での活動と組み合わせたコンピテンシー育成計画立案を可能とした。

【幼児期から大学期までの段階的教育モデルの開発】

- コンピテンシー育成を柱とした幼児期から大学期までの段階的教育モデルの開発に取り組むことを目的に、「コンピテンシー育成研究助成事業 (令和5～6年度)」として学内の教員を対象に研究助成を実施し、令和5年12月に2名を採択。



■ お茶大コンピテンシー10 (10の資質)



■ コンピテンシー育成支援システム (CACICA)

自己評価

評価結果【ii】 (達成水準を満たしている)

【理由】大学生を対象としたコンピテンシー測定ツール、及び附属学校園と連携したコンピテンシー育成に関する教材開発が予定どおり進捗したため。(5-1、6-1共に)

(2) 附属学校園における特色ある教育モデルの成果の発信 (年次計画19-1)

【附属学校園教材・論文データベース】

- 「附属学校園教材・論文データベース」を通じて、令和4年度に開発した授業案をはじめとする教材及び論文の掲出による成果発信と、他校での活用を促進するための各附属学校での公開教育研究会や学会等での周知活動を行った。令和5年度の新規掲載件数は83件 (目標値52件)、利用者数は3,034名 (目標値1,500名)となった。

【附属学校園におけるシンポジウム・セミナー】

- 附属学校園における特色ある教育モデル発信の取組として、計9件 (目標値4件) のシンポジウム・セミナーを開催した。



自己評価

評価結果【iii】 (達成水準を大きく上回っている)

【理由】データベース、及びシンポジウム・セミナーに関する目標値を大きく上回ったため。

【Ⅲ. 各分野の取組】

4. 大学評価・学校教育開発支援(2/2)

(3) 大学と附属学校園の連携強化 (年次計画19-2)

- 附属学校園と大学が連携するオールお茶の水体制の下で、各附属学校園において、大学より教育実習生については**101名** (目標値**100名**)、インターンシップ生**58名** (目標値**35名**)を受け入れるとともに、附属学校園を活用した大学教員のFDを**4回** (目標値**3回**)実施した。FD参加者に対するアンケート結果においては、大学と附属学校の連携に関する意識向上及び授業改善に活かすことができたとする割合が**84.1%** (目標値**80%**)となった。



- 全ての附属学校園が大学と同一キャンパスにある特色を生かして教育研究を推進

自己評価

評価結果【ii】 (達成水準を満たしている)

【理由】 大学と附属学校園の連携強化に関する各取組について、目標値を全て達成したため。

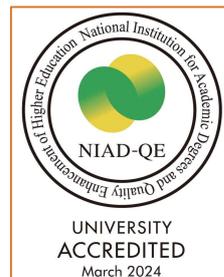
(4) 中期計画の自己点検・評価及び機関別認証評価等による質の向上 (年次計画24-1、24-2)

- 令和4年次計画の実施状況について、総合評価室を中心として自己点検・評価を行い、計画を上回って達成した取組及び改善すべき点等を確認。経営協議会において、民間企業、大学関係等各界の外部有識者(経営協議会委員)からの外部評価を行い、進捗が遅れている計画の管理や国際化の推進に関する提言等を受けた。
- また、本学が教育研究活動の質を保証していることを示すため、令和5年度大学機関別認証評価を受審し、「大学評価基準を構成する27の基準をすべて満たしている。」との評価を得た。今回の認証評価の受審を通じて、本学における大学運営、教育研究の体制等の改善が促され、一層の質の向上につながった。
- 併せて、本学の質保証の一環として「国立大学法人お茶の水女子大学における内部質保証に関する基本方針」に基づき令和4年度に実施した施設設備、学生支援、入学者選抜に関する各自己点検・評価報告書もウェブサイト上で公表した。

自己評価

評価結果【ii】 (達成水準を満たしている)

【理由】 自己点検・評価の実施及び実績報告書の策定・公表、外部評価等について、各取組を順調に実施したため。(24-1、24-2共に)



- 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が定めた大学評価基準に適合していることを認定する「認定マーク」(令和5年度受審)

国立大学法人お茶の水女子大学における内部質保証に関する基本方針 (R4.12.14制定)

①中期目標・中期計画



②施設設備



③学生支援



④入学者選抜



項目毎に「自己評価書」を策定することや、学生・卒業生等の関係者に「意見聴取」(アンケート等)を実施することを規定

【Ⅲ. 各分野の取組】

5. 広報・学術情報(1/2)

R5実績 の概要

- 教育研究の成果と社会貢献の取組を多様なステークホルダーに対して積極的に発信。
- 情報セキュリティ意識の向上に向けた取組を推進。

(1) 高校生等に向けた広報活動の推進 (年次計画11-2)

【学部オープンキャンパス「OCHADAI OPEN CAMPUS 2023」】

- オープンキャンパス「OCHADAI OPEN CAMPUS 2023」を4年ぶりに対面にて開催（R5.7.15～17）。各種説明会、各相談コーナー、キャンパスツアー等に全国から受験希望者、保護者が**3日間合計で6,291名**（受験希望者（延べ）3,549名、同伴者（延べ）2,742名）が参加した（令和4年度と比較して2倍以上）。キャンパスツアーには学生アンパサダーの意見を取り入れ、より受験生に魅力を感じてもらえる構成へ改善。**実施後のアンケート（総回答者数1,511名）では、「満足」との回答が83.3%であり、令和4年度のオープンキャンパス実施後アンケートにおける満足度（81.4%）を上回った。**また、令和6年度の開催に向けて、収容定員が多く見込める会場への変更や、土曜日に学校のある受験希望者のために土曜日の開催時間を見直す等の検討を行った。さらに、令和5年度は高等学校からの団体見学の受付を再開し、出身高等学校の在生学生との懇談会や生協食堂の利用等、各学校のニーズに応じた見学会を行った。



【高大接続教育】

- 高大接続教育の推進により、**附属高校生の大学授業の受講者数は延べ68名（目標値60名）。**

OCHADAI OPEN CAMPUS 2023 (R5.7.15～17)

4年ぶりの対面開催



- 学科・講座・コース別説明会
- 新フンボルト入試説明会・合格者座談会
- 学長への質問コーナー
- 在学生が案内するキャンパスツアー



従来のオンデマンド型



オンデマンドコンテンツを特設サイトに掲載（学長メッセージ、各学部・学科紹介、学生アンパサダーによるキャンパスツアー等）



計**6,291**名が参加（R4年度比：約**2.1**倍）

自己評価

評価結果【ii】（達成水準を満たしている）

【理由】令和5年度学部オープンキャンパスの満足度（83.3%）が、令和4年度満足度（81.4%）を超え、また、高大接続教育の推進による附属高校生の大学授業の受講者数が「68名」であり目標値「60名」を達成したため。

【Ⅲ. 各分野の取組】

5. 広報・学術情報(2/2)

(2) 大学創立150周年及びステークホルダーに向けた広報活動の推進 (年次計画24-3)

- 令和7年度に迎える大学創立150周年に向けた活動として、本学名誉教授による作曲を行う新たな「お茶の水女子大学学生歌」を制作することとして令和6年3月に本学関係者から歌詞の公募を実施。「お茶の水女子大学学生歌」は、令和7年11月に実施する創立150周年記念式典において初演される予定。また、消費生活協同組合と協力し、150周年シンボルマークを装飾した大学オリジナルビスケットの制作を行った。
- その他の情報発信として、令和6年1月に大学の公式Instagram (https://www.instagram.com/ochadai_news/) を開設し、キャンパスの日々の風景や学生の活動などを紹介している。
- 教育・研究成果の情報発信を強化するため、令和5年12月に「お茶の水女子大学研究データ管理・公開ポリシー」及び「国立大学法人お茶の水女子大学オープンアクセスポリシー」を策定した他、「産学官連携インフォメーション」ページを大学ウェブサイト新たに開設し (https://www.ocha.ac.jp/news/industry_cooperation.html)、ステークホルダーに対して産学官連携の事例紹介に取り組んだ。

創立150周年に向けた取組



学生歌歌詞の公募



創立150周年シンボルマークをデザインした大学オリジナルビスケット

ステークホルダーへの情報発信



公式Instagramの開設



「産学官連携インフォメーション」ページの開設

自己評価

評価結果 **【ii】** (達成水準を満たしている)

【理由】第4期中期目標期間における広報の方針に基づき、多様なステークホルダーに対して情報発信を行うことができたため。また、研究データの発信について、プロジェクトチームにおける作業が予定どおり進捗したため。

(3) 情報セキュリティの強化に向けた取組 (年次計画25-2)

- 令和4年度のサイバーセキュリティ対策基本計画に対する自己点検・評価結果に基づき、情報の格付けを令和5年度から設定。
- また、情報セキュリティに関する研修を年3回(目標値2回)開催し、大学構成員の情報セキュリティ意識の向上に繋げた。

自己評価

評価結果 **【ii】** (達成水準を満たしている)

【理由】サイバーセキュリティ対策基本計画に対する自己点検・評価に基づき、必要な改善を実施できたため。また、情報セキュリティに関する研修の開催数が目標値を達成したため。

【Ⅲ. 各分野の取組】

6. 産学連携・イノベーション・SDGs(1/2)

R5実績 の概要

- サステナブル社会実装機構に設置されたSDGs推進研究所、湾岸生物教育研究所において、他機関と連携しながら、SDGsの達成に向けた教育研究活動を推進。

(1) THEインパクトランキングへのエントリー (年次計画3-1)

- 令和5年6月にTHEインパクトランキング2023の結果発表があり、「SDGs：ジェンダー平等を実現しよう」で「201-300位」以内にランクインし国内大学1位を獲得した。当初の目標であった「第4期中期目標期間最終年度までに600位以内を獲得」を大きく達成したため、新たに「100位以内」を目指すこととした。また、THEインパクトランキング2024へのエントリーに向け、17の部門の質問項目を精査し、前回よりも2倍以上の9部門(SDG3,4,5,6,7,8,11,12,17)にエントリーを行った。



本学の実績 (THEインパクトランキング2023)

SDG5：201-300位 (国内の大学で第1位)

本学の目標：R9年度までにSDG5「100位以内」

自己評価

評価結果【iii】 (達成水準を大きく上回っている)

【理由】 THEインパクトランキングへエントリーし、SDG5における目標値を大きく上回る成果を上げ、また、新たな目標として「第4期中期目標期間最終年度 (R9) までに「100位以内」を獲得すること」を設定したため。

(2) SDGs推進研究所における教育・研究、社会貢献等の取組の発信 (年次計画3-2、3-3)

【SDGs推進を担う人材の育成】

- 令和4年度に引き続き、SDGs推進研究所と附属学校園とで連携し、フードライブを実施した。また、企業と連携したSDGs推進活動として(株)セブン&アイ・ホールディングスの運営する「賢者のレシピ」に学生委員が考案したサステナブルなレシピが掲載された。

【SDGs認知度調査の実施】

- 令和5年度は教職員を対象としたSDGs認知度調査を実施するとともに、令和4年度調査結果を分析した。

【企業等と連携したSDGs推進】

- 三井物産(株)との食品と味覚に関する研究や、京都府立大学及び旭化成ホームズ(株)、パナソニック(株)との育児期の共働き家庭の働き方に関する研究など、食とエコシステムや次世代女性人材の育成の分野を中心に令和5年度の本研究所における共同研究・プロジェクト数は4件(目標値1件)、外部資金獲得額は約350万円(目標値200万円)となった。また、企業連携OCHA-SDGsコンソーシアムを2回開催(R5.11、R6.2)し、参加企業からOCHA-SDGs学生委員会やSDGs推進研究所との連携を希望する声が寄せられた。



- (株)セブン&アイ・ホールディングスのHPIに「お茶の水女子大学の学生が考えた賢者のレシピ」が掲載。(出典：(株)セブン&アイ・ホールディングス) webサイトより)



- 第2回企業連携OCHA-SDGsの様子(R5.11)。民間企業7社から15名が参加した。

自己評価

評価結果【ii】 (達成水準を満たしている)

【理由】 コンソーシアムの開催等により企業との連携を深め、食とエコシステムや次世代女性人材の育成といった重点分野での共同研究を推進し、共同研究・プロジェクト数、及び外部資金獲得額の目標値を達成することができたため。

【Ⅲ. 各分野の取組】

6. 産学連携・イノベーション・SDGs(2/2)

(3) 湾岸生物教育研究所における【教育面】の取組 (年次計画3-4)

- 文部科学省の教育関係共同利用拠点に認定されている湾岸生物教育研究所（千葉県館山市）において、「東京湾口の豊かな生物相の理解から海との共生を目指す教育拠点」として、国内外の大学・研究機関等と連携しながら、全国の大学・高校・中学校・小学校に対して、SDG14「海の豊かさを守ろう」の啓発に繋がる教育や海産生物の特徴を活かした生物材料としての海産バイオリソースの提供、体験活動の提供、実習の受入等を行った。
- この結果、令和5年度の①オーダーメイド型臨海実習の実績は、11回・123名（目標値：6回・80名）、②公開臨海実習の実績は21大学・32名（目標値：14大学・20名）、③高校生等対象のイベントの開催実績は、13回・306名（目標値：10回・250名）、④海産バイオリソースの提供は248機関・20,721名（目標値：100機関・10,000名）となった。



- 日本財団「海と日本PROJECT」を通じた、海洋教育に関する各イベントや海産バイオリソースの提供も実施。

自己評価

評価結果【ii】（達成水準を満たしている）

【理由】湾岸生物教育研究所の教育研究所の教育面における取組の全て（オーダーメイド型臨海実習、公開臨海実習、高校生等対象のイベント、海産バイオリソースの提供）において目標値を達成したため。

(4) 湾岸生物教育研究所における【研究面】の取組 (年次計画3-5)

- 船を使用したドレッジ採集、水中ドローンや潜水による観察を通して、湾岸生物研究所の周辺海域の生物相を調査し、造礁サンゴ群体などの変化の記録を行った。生物相調査を継続した結果、千葉県レッドデータブックで絶滅と評価されていた「ウツセミガイ」の生きた個体を千葉県館山湾の海底から採取することに成功し、令和5年9月に個体採取について千葉県立中央博物館と共同でプレスリリースを行った。
- 研究所周辺で大きく変化している海洋の環境について、動植物の発生、進化、生態、保全に関わる研究を推進した。令和5年度は、希少種の発見や動物同士あるいは動物と植物の共生関係、幼生の行動や形態生理についての研究成果を上げ、論文発表数は9本（目標値10本）、学会発表数は27件（目標値10件）となった。

湾岸生物教育研究所におけるプレスリリース及び研究成果の事例

プレスリリース事例



- 千葉県レッドデータブックで絶滅とされていた「ウツセミガイ」を館山湾で採集（R5.9.8）（千葉県立中央博物館と共同プレスリリース）

研究成果



- 千葉県館山市沖ノ島におけるジイガセヒラムシの共生率と宿主1個体あたりの共生数（出典『ニッチェ・ライフ Vol. 11 (Oct. 2023) 78-80.』）（大矢佑基・吉田隆太・清本正人）

自己評価

評価結果【ii】（達成水準を満たしている）

【理由】湾岸生物教育研究所の周辺海域の生物相調査と海洋環境に関する研究は継続して順調に推進されており、令和6年度に開催予定の国際シンポジウムに向けた準備も着実に進んでいるため。

【Ⅲ. 各分野の取組】

7. 事務の効率化・安全管理

R5実績 の概要

- 事務システムの効率化やIT人材の育成に引き続き取り組み、デジタル・キャンパス化を更に推進。
- 今後発生が想定される自然災害に備えるとともに、新学部を含めた防災体制を構築。

(1) 事務システムの効率化等に関する改革方針に基づく取組 (年次計画25-1)

- 令和4年10月に策定した「国立大学法人お茶の水女子大学における事務システムの効率化等に関する改革方針」に基づき、事務システムの効率化に向けた取組やデジタル人材の育成を推進した。この結果、令和5年度に、改革方針に基づきデジタル化を行った業務数は18件(目標値4件)となった。

改革方針に基づきデジタル化を行った業務の事例

【事例①】立替払処理の一元化



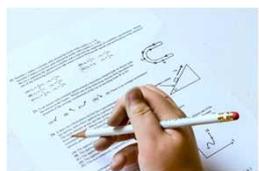
- ・立替払処理を「Amazonビジネス」(令和5年10月導入)に一元化。
- ・立替払件数は令和4年度:約9,400件⇒令和5年度:約5,800件に大幅削減。

【事例②】入学手続きのオンライン化



- ・全ての正規学生を対象として、入学金等の納入、学生証用写真のデータ提出、学籍情報の取得についてシステム構築し、オンライン化

【事例③】入試成績開示申請の電子化



- ・一般選抜の入試成績開示申請をインターネット上で行えるよう出願システムを改修。
- ・令和5年度は、本システムにより1,168名が成績開示を希望。

【事例④】ルーティン業務のRPA化(自動化)



- ・RPAソフトとして、Microsoft社「Power Automate Desktop」を活用。
- ・事務部門の5件のルーティン業務をRPA化し、約148時間分の業務量を削減。(令和4年度は4件、約10時間の削減)

自己評価

評価結果【iii】(達成水準を大幅に上回っている)

【理由】改革方針に基づきデジタル化を行った業務数について目標値を上回って実施し、効率化が促進されたため。

(2) 防災活動の推進 (年次計画その他10-1)

- お茶の水女子大学防災計画に基づき、避難訓練・安否確認訓練(R5.4.25)、防火・防災関係講習としてオンデマンド講習及び実地訓練(消火器・消火栓の使い方)、共創工学部設置に伴う防火・防災体制の見直し等を実施した。また、年間を通じて、各附属学校園において避難訓練等を実施した。

共創工学部設置前の防火・防災体制(旧)

文教育学部
地区隊 生活科学部
第1地区隊 生活科学部
第2地区隊



共創工学部設置後の防火・防災体制(新)

文教育学部
地区隊 生活科学部
地区隊 共創工学部
地区隊

※「その他計画」については、自己評価における評価結果の判定【i～iii】は行っていません。

【Ⅲ. 各分野の取組】

8. 進捗が遅れている取組の対応・改善策

第4期中期計画を踏まえて策定した「評価指標」及び「年次計画」に掲げられている取組のうち、総合評価室において「達成水準を満たしていない（三段階判定における【i】相当）」と自己評価した取組の対応・改善策について記載しています。

計 画	達成できていない、または進捗が遅れている取組	対応・改善策
【10-2】 (定量)	<ul style="list-style-type: none"> 「数理データサイエンス・AI教育プログラムにおけるリテラシーレベル修了者数」について、毎年度の目標値を「50名」に設定していたが、令和5年度の実績値は「26名」であった。 ※評価指標【S10-2】では、令和4～9年度で計300名が上記プログラムにおけるリテラシーレベルを修了することを目標としている。 ※令和5年次計画【10-2】については、計画全体の進捗状況を総合的に勘案して、自己評価を【ii】（達成水準を満たしている）としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善に向けた取組として、令和6年度からはリテラシーレベルを三段階に分けたり、構成科目（「応用基礎レベル」への申請）を増加させる等、修了者数達成への対策に取り組んでおり、「数理データサイエンス・AI教育プログラムにおけるリテラシーレベル修了者数」は令和6年度以降は増加することが見込まれる。
【15-2】 (定量)	<ul style="list-style-type: none"> 「学部卒業時に留学経験を持つ学生の比率」について、毎年度の目標値を「24%」に設定していたが、令和5年度の実績値は「21.2%」であった。 ※評価指標【S15-2】では、「学部卒業時に留学経験を持つ学生の比率」が「24%（毎年度）」となることを目標としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度卒業生（令和2年度入学生）については、コロナ禍の影響を学部1・2年次に受けた世代であり、海外渡航の機会が少なかったことや、円安、燃料費高騰のため海外渡航の負担が大きくなっていることから、目標値「24%」の達成には至らなかった。 留学説明会や個別相談の機会を設けたり、留学手続の一部においてweb上で学生自ら申請できるようになったことから、令和6年度以降の「学部卒業時に留学経験を持つ学生比率」は緩やかな回復が見込まれる。
【15-3】 (定量)	<ul style="list-style-type: none"> 「学部卒業時に外国語力スタンダードを達成する学生比率」について、毎年度の目標値を「20%」に設定しているが、令和5年度の実績値は「14.9%」であった。 ※評価指標【S15-3】では、「学部卒業時に外国語力スタンダードを達成する学生の比率」が令和4～9年度平均で20%となることを目標としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度卒業生（令和2年度入学生）については、コロナ禍での入学のためTOEFL全員受験や語学検定の受験機会が他の年度よりも少なかった影響があり、「14.9%」となった。今後は、学生の学習環境・受験機会がコロナ禍以前に戻ることで、また外国語教育センターを中心とした取組により、指標達成が期待できる。
【16-2】 (定量)	<ul style="list-style-type: none"> 「全学生に占める外国人留学生の比率」について、令和5年度の目標値を「12%」とし、経年で比率を向上させていくことを目標としていたが、令和5年度の実績値は「11.8%」であった。 ※評価指標【S16-2】では、全学生に占める外国人留学生の比率を令和4～9年度平均で14%以上とすることを目標としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 留学生向け広報の推進、サマープログラムの対面再開等により、留学生の受入は大きく増えたが、本学留学生の大半を占める中国は、コロナ禍の影響が他の地域より長引き、正規生の予備軍である私費留学生の減少が続いたため、目標値「12%」の達成に至らなかった。 令和4年度に採択された大学の世界展開力事業（インド太平洋地域等との大学間交流形成支援）（支援期間：R4～R8年度）を活用し、英語によるコースを開講することで、日本語を話せない留学生も受け入れられるよう抜本的な改革を継続することで、回復を見込む。
【18-3】 (定量)	<ul style="list-style-type: none"> 「クロスアポイントメント制度利用者数（本学採用者）」について、令和5年度の目標値を「6名」としていたが、令和5年度の実績値は「5名」であった。 ※評価指標【S18-3】では、クロスアポイントメント制度利用者数（本学採用者）を令和9年度時点で10名以上とすることを目標としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善に向けた取組として、令和5年度より新たに3大学とのクロスアポイントメントを開始した。今後のクロスアポイントメント制度利用者（本学採用者）の拡大に向け、交渉を継続して実施している。

以上

国立大学法人お茶の水女子大学
令和5事業年度に係る業務の実績に関する
報告書の概要について

作成：企画戦略課（評価担当）

作成日：令和6年6月